

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 19
2017. 11

TOPICS

1

榎野学長らが本学のSDGsとESDの取り組みを発信するためユネスコ本部を訪問

国連教育科学文化機関(ユネスコ)などが中心となって実施している「持続可能な開発のための教育(ESD)」や国連が全世界を巻き込んで達成を目指している「持続可能な開発目標(SDGs)」に関する取り組みの情報収集と、本学のSDGs、ESDの取り組みの情報発信などを目的として、榎野博史学長らが11月2～3日、フランス共和国パリにあるユネスコ本部を訪問しました。

今回の訪問では、榎野学長のほかに、横井篤文副理事・上級UGA、地域総合研究センター(アゴラ)の流尾正亮職員が、ユネスコ総会に関連した第3回ユネスコ/日本ESD賞授賞団体との会合やSDGs・ESD関連出版記念会などに参加。「ユネスコ/日本ESD賞」のスポンサーである日本政府を代表して参加していた文部科学省の林芳正大臣をはじめ、ユネスコのチェン・タン事務局長補佐や同教育局ESD課のアレクサンダー・ライヒト氏、ミリアム・テレック氏らと会談し、「榎野ビジョン」とともに共創する本学ならではのSDGs、ESDの取り組みについて精力的に紹介し、意見交換を実施しました。

今後はこれらの関係機関とさらなる連携を深めつつ、これまで培ってきた本学ならびに岡山の地での特色ある取り組みを継続しつつ、榎野ビジョンの「実りの学都」を基礎としてSDGs、ESDを強力に推進していきます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7151.html

TOPICS

2

大学院ヘルスシステム統合科学研究科を新設

本学は平成30年4月より、新しく「大学院ヘルスシステム統合科学研究科」を設置します。

我が国が、現在直面している少子高齢化や地域経済社会の疲弊といった諸課題を解決するためには、これまでの医学と工学技術の学術的連携によって生まれる成果が、人間社会において適切にかつ確実に活用されることが必要になってきています。

このような背景を踏まえ、「大学院ヘルスシステム統合科学研究科」では、学生が学部や修士課程までに学んだ専門分野(工学・医療・保健・人文社会等)の知識や技術を軸としながら、さらにその垣根を越えた学際的な教育・研究を行います。医療・福祉の現場など、社会のあり方や課題を見つめ、それに対して学術や科学の知見を活かし、人々と一緒に新たなものづくりや社会の仕組み作りができる人材を育成することが、本研究科の目標です。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7162.html

最近の大学の取り組み

「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現の加速を！ 専用WEBページ「岡山大学×SDGs」を公開



本学は、理念・目的に基づき、持続可能な社会の実現に向けて教育・研究・社会貢献の諸活動を強力に推進してきました。本年4月には、第14代学長として榎野博史学長が就任し、「榎野ビジョン:しなやかに超えていく『実りの学都』へ」を発表、さらなる活動の推進を実施しています。本学における精力的なSDGsへの取組情報の一元化とともに、好事例の横展開の拡大やSDGsに関連した産学官連携強化推進などの観点から、SDGs専用のWEBページ「岡山大学×SDGs」を開設しました。ぜひ、ご覧ください。

参考 <http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/okayama-sdgs.html>

スーパーグローバル ホームカミングデイ2017を開催

本学は10月21日、同窓生や地域の人を招き、大学に親しんでもらうイベント「スーパーグローバルホームカミングデイ2017」を開催しました。訪れた延べ1,700人の来場者が互いに交流を深めました。

本イベントは、応援団総部による力強い演舞で開幕。メイン会場の創立五十周年記念館では、歓迎式典や岡山大学Alumni(全学同窓会)総会、「わくわく理学 ー未来に挑む岡大理学部ー」と題した特別講演会を開催しました。このほか、うらじゃ連「楽鬼(らっき)」「笑輝(しょうき)」による演舞や、学生音楽系サークル・団体が出演する「ミュージックフェスティバル」、茶道部お茶席など多彩な催しを実施。来場者は楽しそうに会場を回っていました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7135.html



大学祭(津島祭、鹿田祭)を開催



本学は11月3～5日、津島キャンパスで津島祭(4日まで)、鹿田キャンパスで鹿田祭を開催しました。

津島祭は、恒例の文化系クラブの展示や音楽系クラブのライブ、茶道部による茶会、応援団総部やうらじゃ連による演舞、子ども向けの体験イベントやスポーツ企画などを実施。バラエティ豊かな模擬店には行列ができるなど連日盛況でした。また、ラッパーでシンガーソングライターのSKY-HIさんによるコンサートも満員の観客で盛り上がりしました。

鹿田祭は、「身近なこころの病気」と題した医学展やメディカルチェックコーナー、歯学部学生によるブラッシング指導など医療系キャンパスならではの催しが行われました。またサークルによる各種模擬店のほか、カラオケコンテストや女装コンテストといった参加型イベント、吉沢亮さんのトークショーもあり、多くの観客が詰めかけました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id7136.html

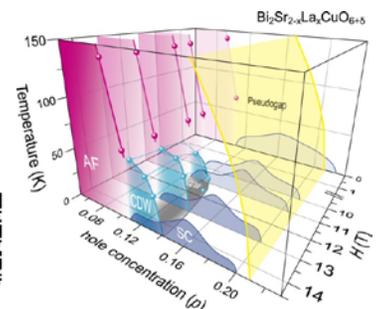


高温超伝導転移直前に隠された電荷秩序を発見 ～高温超伝導発現機構解明へ重要な鍵～

大学院自然科学研究科(理)の鄭国慶教授、川崎慎司准教授らの研究グループは、銅酸化物高温超伝導体において、未知の「電荷密度波秩序」が存在することを新たに発見しました。また、この秩序が、高温超伝導転移前の異常金属状態と関係があることを突き止めました。

電子は「スピン」と「電荷」という二大素性をもっています。高温超伝導は電子のスピンが関与する反強磁性秩序状態が抑制されてから発現するため、これまでの研究はスピンの役割の解明に集中していましたが、本研究グループは、今回新たに電荷の役割を発見したのです。すなわち、超伝導発現し始めるところでは、スピン秩序に取って代わって電荷秩序が現れることを突き止めました。本研究成果は11月2日英国時間午前10時(日本時間午後6時)、英科学誌「Nature Communications」に掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id508.html



青色光と二酸化炭素による気孔開閉運動を 制御する分子機構の解明

九州大学大学院システム生命科学府博士後期課程の樋山麻美大学院生・日本学術振興会特別研究員(当時)、九州大学大学院理学研究院の島崎研一郎教授(当時)(現:九州大学名誉教授)、山口大学大学院創成科学研究科理学系学域の武宮淳史准教授、京都大学、名古屋大学遺伝子実験施設の多田安臣教授、岡山大学大学院環境生命科学研究科(農)の宗正晋太郎助教、村田芳行教授らの共同研究グループは、青色光と二酸化炭素に応答した気孔開閉運動を制御する分子機構の一端を明らかにしました。本研究成果は11月3日英国時間午前10時(日本時間午後7時)、オンライン国際科学誌「Nature Communications」に発表されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id509.html

